

予算特別委員会記録（第3号）

平成20年3月19日 水曜日 午前10時00分開議

大道寺 信 委員長 我 妻 昇 副委員長

出席委員（17名）

1 番 竹 田 博 一 委員	2 番 鈴 木 悟 司 委員
3 番 我 妻 昇 委員	4 番 大 道 寺 信 委員
5 番 谷 口 栄 子 委員	6 番 蒲 生 光 男 委員
7 番 町 田 義 昭 委員	8 番 安 部 隆 委員
9 番 渋 谷 佐 輔 委員	10 番 高 橋 孝 夫 委員
11 番 大 沼 久 委員	12 番 藤 原 民 夫 委員
13 番 鈴 木 良 雄 委員	14 番 小 関 勝 助 委員
15 番 鈴 木 武 次 委員	16 番 鈴 木 新 助 委員
17 番 蒲 生 吉 夫 委員	

欠席委員（0名）

+

説明のため出席した者

内 谷 重 治 市 長	新 野 潔 副 市 長
遠 藤 健 司 自立経営対策室長	総務課長兼選挙管理委員会事務局長
松 本 弘 財 政 課 長	平 進 介 企 画 調 整 課 長
中 井 晃 税 務 課 長	松 木 幸 嗣 市 民 課 長
船 山 祐 子 健 康 課 長	浅 野 敏 明 福 祉 事 務 所 長
高 橋 信 夫 会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	平 英 一 消 防 主 幹
大 滝 昌 利 教 育 課 長	飯 澤 孝 一 管 理 課 長
遠 藤 正 明 農 林 課 長	鈴 木 義 一 商 工 観 光 課 長
鈴 木 一 則 建 設 課 長	齋 藤 理 喜 夫 水 道 事 業 所 長
那 須 宗 一 文 化 生 涯 学 習 課 長	渡 部 政 明 中 央 公 民 館 長 兼
宇 津 木 正 紀 図 書 館 長	平 正 行 生 涯 学 習 プ ラ ザ 館 長
高 橋 徹 市 民 文 化 会 館 長	佐 藤 孝 博 学 校 給 食 共 同 調 理 場 長
	鈴 木 要 一 郎 農 業 委 員 会 事 務 局 長

沼澤厚子 監査委員事務局長

鈴木隆政 勤労センター所長

事務局職員出席者

佐藤 仁 議会事務局長

児玉行宏 補佐

五十嵐 恵美子 庶務係長

塚田知広 主任

本日の会議に付した事件

- 議案第 1 号 平成 20 年度長井市一般会計予算
- 議案第 2 号 平成 20 年度長井市国民健康保険特別会計予算
- 議案第 3 号 平成 20 年度長井市公共下水道事業特別会計予算
- 議案第 4 号 平成 20 年度長井市老人保健医療費給付事業特別会計予算
- 議案第 5 号 平成 20 年度長井市山形鉄道運営助成事業特別会計予算
- 議案第 6 号 平成 20 年度長井市農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第 7 号 平成 20 年度長井市訪問看護事業特別会計予算
- 議案第 8 号 平成 20 年度長井市介護保険特別会計予算
- 議案第 9 号 平成 20 年度長井市浄化槽事業特別会計予算
- 議案第 10 号 平成 20 年度長井市用地特別会計予算
- 十 議案第 11 号 平成 20 年度長井市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第 12 号 平成 20 年度長井市水道事業会計予算

開 議

○大道寺 信委員長 おはようございます。

これより、17日に引き続き予算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成20年度長井市各会計予算案に関する総括質疑

○大道寺 信委員長 それでは総括質疑を続行いたします。

蒲生光男委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 順位4番、議席番号6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 私の質問通告してございますのは市税等の徴収方法ということでございますけれども、今、新聞紙上で天童市の旬な話題があるわけでございますが、議案を提案する権利を持つやっぱり当局、特に市長始め当局の皆様には慎重であるべきだなというふうに思いますし、同時に議案を審議する議会についても、市民目線に立って、市民の幸せにつながっていくのかどうか、そういう真剣な議論が求められているのではないのかなというふうに私は感じているところでございます。

今回の問題につきましては、収納率を92%に

すると。よって3,000万円の収入増を見込んでいると。もう1点は、延滞金、加算金等において前年度の実績並みの500万円を計上しているというこの2点について、主にお聞きをいたしてまいりたいというふうに思っております。

これもひとえに、私は、収納率向上が近年自治体にとって極めて重要で緊急な課題であるということを繰り返し繰り返し申し上げてまいりました。その結果、平成17年の3月でしたが、収納率向上対策本部ができて、昨年度のデータによりますと、90.95という県内の中では唯一と言っていい収納率向上が図られたと。これは、一つの対策本部の取り組みの成果ではないのかなというふうに思っております。

収納率向上分で3,000万円の歳入増を見込むというのは、今までなかったように私思うんですが、集中改革プランの中でこれを取り上げてきちっと数値化したということについては、「果たしてそれだけの実績を得られるのか」という疑問視をする声もありますけれども、私は当然であるし、理解もしますし、その取り組みをきちんとやってほしいという姿勢でおります。ぜひこれを達成していただきますようお願いをしたいと思います。

今までの質問の中でもさまざまな意見があったわけですが、例えばあやめ公園の入園料の問題、これは言ってみれば到底無理ではないかと言われながらも、その数字を出してきた経緯もあります。あるいはまた募金の500万円についても、実際それは裏づけあるのかと言われれば、それは希望の数字であったろうと思います。あるいはまた公有財産売り払い収入でも、結局売れずじまいでございましたけれども、上げざるを得なかった。収支均衡予算を図るためにそうせざるを得なかったという側面、もしかするとあるのかもしれませんが、この収納率向上の3,000万円についてはそういうような性格のものではない。市税収入を見込むと同じように、

+